

「税金の力」

草野 悠大

昨年、自宅で母が倒れて救急車を呼んだ。幸い、母は数日入院しただけで回復したが、もし救急車がすぐに来てくれなかったらと想像すると、とても不安になった。いざという時に無料で駆け付けてくれる救急車について気になって調べてみると、救急車の出動費が税金で賄われていることが分かった。さらに、救急車の一回の出動には約四万五千円もの費用が必要で、年間で三千億円以上の税金が使われているということも分かった。しかも、一年間の出動件数の内、四割以上が軽症者だと知って驚いてしまった。費用が無料だからといって、むやみに救急車を呼んではいけない。税金の負担も増えるし、救急車の数だって限られているはずだ。重症患者の救助が遅れる危険性も考えると、適切に利用することが必要だと強く感じた。

また、僕たち子供の医療費も、一部が税金で賄われている。僕が病気にかかっても、医療費の三割(自己負担分)が助成されるので、無料で診察が受けられる。費用を気にせずに診察が受けられるのは有り難いが、この子供の医療費もむやみに使えば、財源を逼迫させる。救急車と同じく、適切に利用することが必要だろう。

医療関係のみならず、日常生活の様々な場面で税金が使われている。例えば、図書館。僕は日頃からよく区立図書館を利用しているが、古い書籍から小説の最新刊まで幅広く取り揃えられていて、とても重宝している。これらの本も、税金を使って購入されているので、僕は日頃から税金の恩恵を受けているわけだ。図書館には自習スペースがあり、学生や社会人が集中して物事に取り組むことのできる場所にもなっているし、クーリングシェルターにも指定されていて市民の憩いの場にもなっている。税金には、市民の生活を豊かにする力があると感じた。

次に、自宅近くにある「そなエリア東京」という防災体験学習施設に言及したい。ここは僕が小さな頃から何度も訪れている場所で、首都直下地震発生直後の七十二時間をどう生き抜くかが学べる体験型施設となっている。また、体験学習施設だけでなく、併設された広域防災公園は、実際に大規模災害が起きた際に、支援部隊のベースキャンプや医療基地として機能する。この「そなエリア東京」も、国によって税金で運用されており、将来、災害が起きたときに自分たちの命を救ってくれる大切な場所だと思う。

今回いろいろ調べてみて、税金は、僕たちの日常と未来に豊かさをもたらす大切な資金だということが、とてもよく分かった。大人になって社会に出てからも、税金の使われ方に注意を向け、僕たちの安心安全な生活が持続的に守られるよう、きちんと税金を納めようと思った。